

## 予 算 要 求 資 料

令和 7 年度 3 月 補正 予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：県産材流通対策費

### 事業名 【新】きのこ原木成林再生化検討委託事業（R8分）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 県産材流通課 資源活用係 電話番号：058-272-1111(内4362)

E-mail：c11545@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 600 千円 (現計予算額： 0 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	600	300	0	0	0	0	0	0	300
決定額									

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

#### 【現状】

きのこ用等の原木等に利用するため伐採が行われた広葉樹林は、伐木の根株からの萌芽で成林させる天然更新が多く行われている。

しかし、県内各地の森林ではシカによる下層植生の食害が発生しており、広葉樹の天然更新地でも稚樹が繰り返し食害を受ける等の被害が発生している。

根株は萌芽した稚樹が繰り返し食害を受けると、萌芽力は低下し枯死してしまうことから広葉樹の再生が阻害されている。

また、広葉樹天然更新地に対応した獣害対策手法は少なく実施も進んでいない。

#### 【課題】

天然更新地に適した獣害対策工法を検証し、伐採跡地の施工を普及していく必要がある。

### (2) 事業内容

天然更新地に対応した獣害対策工法を検証するため、原木しいたけ栽培用に伐採された箇所に、既存の獣害対策等を応用した工法を試験施工する。

(3) 県負担・補助率の考え方

新しい地方経済・生活環境創生（第2世代交付金）

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	600	
合計	600	

**決定額の考え方**

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画（R4～R8年度）

(a) きのこ生産資材の安定供給と生産者の負担軽減

(2) 国・他県の状況

他県等における類似の事業、検証の取組はない。

(3) 後年度の財政負担

令和10年度まで実施し、終年度中に必要な検討を行う。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：県

萌芽更新の獣害対策方法を検証するため事業主体を県にすることは妥当。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

本事業により、天然更新地に対応した獣害防止策を検証し、施工を普及する手法を考案する。令和10年度までに事業体等による取組み実践を図る。

※終期：第4期岐阜県森林づくり基本計画、第5期岐阜県森林づくり基本計画（作成予定）期間による。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2~4)	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標	終期目標 (R8)	
					達成率	
①キノコ生産量	4,100	3,703	3,660	4,400	4,500	81%

○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和4年度	・取組内容と成果を記載してください。
令和5年度	・取組内容と成果を記載してください。 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和6年度	令和7年度当初予算にて追加 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 3	広葉樹が循環的に利用され、森林の価値が高まるようにするためにも取組は必要である。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価)	

### (今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 広葉樹林の天然更新地の多くは、伐採以降の施業は行われることが少なく、自然の再生力に頼られており管理が進んでいない。</p>
--

### (次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか シカの食害を受けにくくなる樹木に成長するまで検証する必要がある。</p>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	森林研究所の森林被害(獣害)に係る研究と連携
組み合わせる理由 や期待する効果 など	検証への学術的な助言が得られる。